

建設通信新聞

発行所 日刊建設通信新聞社
〒101-0054
東京都千代田区神田錦町3-13-7
電話(03)3259-8711
FAX(03)3259-8730
©日刊建設通信新聞社 2021

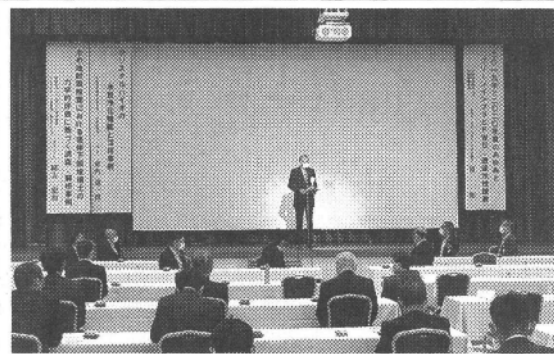
変化に対応を

日本建設 技術 研究成果発表会

日本建設技術(佐賀県唐津市、原裕社長)は24日、同市の唐津シーサイドホテルで、グループ会社による2021年度(第17回)研究成果発表会を開いた。写真。リモートで参加した古川康総務政務官ら国会議員、加藤合同国際特許事務所の加藤久所長など来賓を含め約120人が参加し、社会の変化に対応して技術力を磨くことを誓った。

冒頭、原社長は、新型コロナウイルス感染症の影響で20年度の発表会を中止にしたことを踏まえ、「創業67年を迎えてきた。社会の変化に堪え、建設業界は大きく変わってきた。社会の変化に堪え、前向きに挑戦する姿勢を持って変化に対応できていく。それが人の財(たから)、人材となり、技術力の向上につながる」とあいさつした。

成果発表では、原社長が19、20年度の歩みとともに、「グリーンインフラとFWG・透水性舗装」を題して講演し、通常のアスファルト舗装に比



べて最大約17度温度を下げる技術が東京・銀座のグリーンインフラ・緑のプロムナードに最適なことを説明した。続いて、企画開発本部技術研究所の金丸彦一郎所長が「クリ

スタルバイオの水質浄化機能と活用事例」、建設&コンサルタント事業本部コンサルタント事業部第2グループの緒方宏和グループ長が「ため池耐震照査における堤体下部堆積土の力学的評価に基づく調査・解析事例」を発表した。

講評した加藤所長は「今後は今まで以上に世の中が変化に受け入れられる技術開発を力の続く限り継続してほしい」と激励した。

その後、グループ各社で大きな業務成果を上げた優秀技術者や功労者、工事評点優秀者、資格取得者の表彰式、新入社員の紹介を行った。